大越 円香 個展

OKOSHI Madoka solo exhibition

表層を観測する

Observe the surface

KUNST ARZT では、大越円香個展を開催します。 大越円香は、スマートフォンと人間との関係性の考察を、 漂白した写真などで表現するアーティストです。

「もちゆくもの(2020)」では、アーティストの出身地である 秋田県能代市を撮影、プリントした画面に、"漂白"という マイナスのペインティングをすることで、過疎化していく 町並みの現状をリアルに映し出しました。そして、それを バーチャルな世界と接続するスマートフォンで撮影、プリント することで、リアイティの無さというアンビバレントな バランスが共存していました。

本展では、他者との共存の可能性を探ることをテーマに 展開します。ご注目ください。

(KUNST ARZT 岡本光博)

KUNST

www.kunstarzt.com



「Melting scenery」 2021

経歴

1997 秋田県出身

2020 秋田公立美術大学ビジュアルアーツ専攻卒業

2021 情報科学芸術大学院大学 (IAMAS) メディア表現研究科 博士前期課程 (修士) 在学中

2019年 不在の標本(アトリオン 2階 美術展示ホール/秋田市) 2021年 Unaccounted for " "(Gallery TURNAROUND / 仙台市)

主なグループ展

2020年 アートアワードトーキョー丸の内(東京駅行幸ギャラリー/東京)

2020年 SHIBUYA STYLE vol.14(西武渋谷店/東京)

2021 年 SHOEREEL ~ 境界を往来するメディアアート~(秋田公立美術大学サテライトセンターほか/秋田市)

2021年9月7日(火)から12日(日) 12:00 から 18:00

会 場: KUNST ARZT

605-0033 京都東山区三条神宮道北東角 2F

press release 2021 6 25 KUNSTARZT-369

表層を観測する

Observe the surface

アーティスト・ステートメント+展覧会コンセプト

スマートフォンの「触れるという行為」から作品制作をすることで現代のスマホと人間の間で起こる「自己と他者との共存」をテーマに制作を行う。体における表面としての皮膚、インターネットの表面としてのSNS、そしてそれをつなげるメディアに興味を持つ。

今日、スマートフォンは誰もが持つデバイスとなり、日常の事柄を写真や動画などで記録すると同時に、SNSを通し瞬時に世界中と共有することができる。画面を操作する際の「指触」をトリガーとするスマートフォンの機能は、従来の皮膚の機能を超え、現実空間と仮想空間を接続するための新たな感覚となりつつある。

人間の身体は、いつまでスマートフォンを従属的立場に置いておくことができるか。自律的に考え、反逆する可能性すら持っている「第二の皮膚」との共存において、意識はどこに存在するのか。現実空間と仮想空間の境界、小さな画面を舞台として起こっている「自己/他者」の行方を見極めつつ、他者との共存可能性を探ることを制作のテーマとする。



「もちゆくもの」 2020年 キャンバスにインクジェットプリント、漂白剤 1000mm*6000mm



「指触する界面」 2021年 キャンバスにインクジェットプリント、 漂白剤 1600mm*900mm

「Melting scenery」 2021年 写真に除光液 127 mm × 178 mm